

UVインキ

UV CORE TYPE-C

『UV CORE TYPE-C』は近年普及が進んでいる省電力型UVシステム(オゾンレスUV、LED-UV)に対応した紫外線硬化型インキであり、一般厚紙・PEコート紙に使用されているカルトン用UVインキです。飲料水容器・食品包装容器・化粧品箱等様々な用途に利用されており、耐摩擦性や耐溶剤性などの諸耐性が優れております。脱墨性に優れ財団法人日本環境協会のエコマーク認証を取得しております。

■ 基準色および耐性

品名	耐光性		耐熱性	耐石けん性	耐溶剤性
	濃色	淡色			
UV CORE TYPE-C 黄	4	3	4	5	5
UV CORE TYPE-C 紅	4~5*	3*	4	2	4
UV CORE TYPE-C 藍	8	7	5	5	5
UV CORE TYPE-C 墨	7	4	5	2	2
UV CORE TYPE-C メジウム	8	—	5	5	5
UV CORE TYPE-C コンク金赤	3*	2*	4	1	3
UV CORE TYPE-C 耐光コンク金赤	4~5	3	4	3	4
UV CORE TYPE-C ピンク*	4*	2*	2	1	2
UV CORE TYPE-C 耐性紫	7~8	7	5	5	5
UV CORE TYPE-C グリーン	8	7~8	5	5	5
UV CORE TYPE-C 超耐光黄	6~7	5~6	5	5	5
UV CORE TYPE-C 超耐光コンク金赤	6~7	5~6	5	5	5
UV CORE TYPE-C 超耐光プロセス紅	6~7	5~6	5	5	5

耐光性：8(優)⇔1(劣)、その他：5(優)⇔1(劣)

☆水(結露を含む)のかかる環境で、マイグレーションを起すことがあります。

* 水に濡れた状態では、耐光性が極端に悪くなります。

〈試験方法〉

耐光性…印刷物をフェードメーターにて照射試験し、暴露時間と変褪色の程度により強度を8段階に分級。

希釈しない濃色とメジウムで5倍に希釈した淡色を試験。

耐熱性…印刷物を150℃の熱風循環式乾燥機中で10分間加熱し、変褪色の程度により強度を5段階に分級。

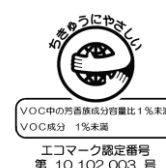
耐石けん性…印刷物を10%の石けんゲルに20~25℃で1時間付着し、変褪色の程度および石けんゲルへのブリードの程度により強度を5段階に分級。

耐溶剤性…印刷物をトルエンとアセトンの1:1混合液に20~25℃で24時間浸し、変褪色および混合液へのブリードの程度により強度を5段階に分級。

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。

■ 使用上の注意

- ▶ 本インキを従来型UV照射機で使用すると脱墨性が低下しますので、省エネ型UVシステムで推奨されている硬化条件にてご使用下さい。
- ▶ 印刷物が屋外もしくは水(結露を含む)のかかる環境に置かれた場合、接着力が低下して爪などによって簡単に剥がれることがありますので予めご確認願います。
- ▶ 墨インキは補色に耐性の弱いアルカリブルートナー顔料を使用しています。PP貼りなどの印刷後加工を行なう場合やレトルト加工等の印刷物製品の必要物性については予め予備試験をおこなって適性をご確認ください。耐性が必要な場合にはご相談下さい。
- ▶ インキ盛り過ぎやランプ劣化により、硬化不良・密着不良の原因となります。ご注意ください。
- ▶ 人体に影響ないように考慮して設計しておりますが、皮膚・衣類等にインキが付着したまま長時間放置いたしますと、人によってカブレを生じる場合があります。作業時の保護具の着用、作業後の手洗い等ご配慮下さい。
- ▶ 目に入った場合には直ちに多量の水で15分以上洗い流し、眼科医の手当を受けて下さい。皮膚に付着した場合には汚染された衣服や靴等の汚れを落としたのち、付着部または接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流して下さい。もし皮膚に炎症やかゆみを生じた場合は、直ちに医師の手当を受けて下さい。
- ▶ インキ取り扱い時火気に注意し、作業場は換気を十分に行い、紫外線や直射日光を避けて取り扱って下さい。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れたりしないように適切な保護具を着用願います。作業衣等に付着した場合は、直ちにその汚れを落とし着替えて、汚れ部分が長時間接触することを避けて下さい。取り扱い後は手洗いとうがいを十分に行って下さい。



2022/02/15 No.1

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。